

琵琶湖沿岸、西の湖および伊庭内湖における ホンモロコの産卵状況

大植伸之・藤岡康弘

1. 目的

ホンモロコの産卵状況と産卵期間中の水位変動の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2地点)と周辺内湖(2地点)において産卵調査を例年行っており、平成30年度についても同様に調査を行った。

2. 方法

大津市小野、長浜市延勝寺、近江八幡市西の湖、東近江市伊庭内湖の4ヵ所において、湖岸距離約50m~100mのヨシ・ヤナギ帯で、概ね3月から7月まで原則1回/週の頻度でホンモロコの産卵状況を調査した。孵化までの期間常に水中にあった卵を生存卵、孵化までの期間常に干出していた卵を死亡卵、孵化までの期間干出した期間が含まれる卵を不明卵と評価した。琵琶湖水位の変動は、琵琶湖河川事務所の琵琶湖水位データを用いた。

3. 結果

産着卵は、4月下旬から6月中旬まで確認された(図1~4)。

産卵期間を通じた各調査地点の産着卵数は、小野が約1千粒、延勝寺が約83万粒、西の湖が約93万粒、伊庭内湖が約62万粒であった。

調査日における産卵のピークは延勝寺および西の湖が6月12日、伊庭内湖が5月22日、5月29日、6月12日であった。小野では6月12日に1度産卵が確認されただけであった。

産卵期間中の琵琶湖水位は、5月中旬から低下し5月下旬から3週間維持したものの6月中旬まで概ね下がり続け、各調査地点とも産卵のピークがこの時期と重なった為、参着卵の多くが不明卵、死亡卵と評価された。

水面付近に産卵を行うホンモロコシの特性上、産着卵は水位の変動による干出の影響を受け

やすい為、産卵時期の大きな水位の低下がホンモロコシの再生産を抑制している可能性がある。

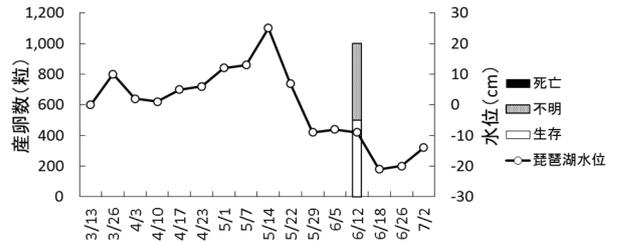


図1 小野における産着卵数の推移

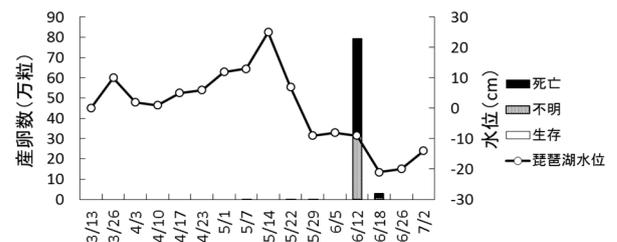


図2 延勝寺における産着卵数の推移

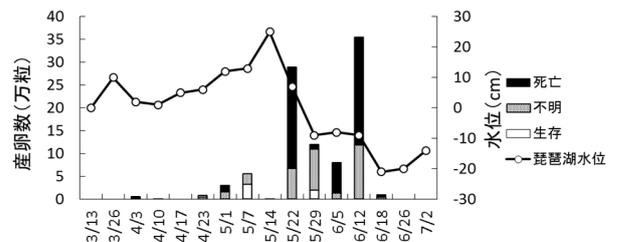


図3 西の湖における産着卵数の推移

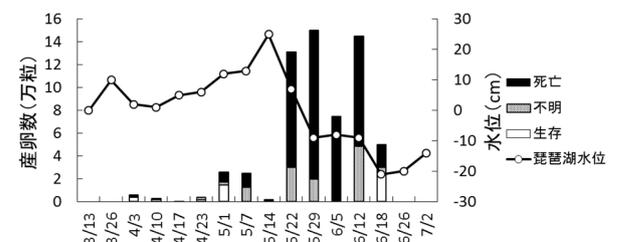


図4 伊庭内湖における産着卵数の推移